

## 秋高連と秋田県人会等の現況

東京地区秋田県人会連合会理事

第26期(新8期) 畠山 信孝

現在、首都圏には秋田県下の高校同窓会各支部及び、独立同窓会等を含め41同窓会が加盟する在京秋田県高校同窓会連合会(秋高連・会長澤木誠一氏(秋田工業)があります。



又、東京地区秋田県人会連合会(会長渡部健蔵氏)があり、各ふるさと会、地区ふるさと会の94団体が加盟して居ります。

秋田県人会連合会会員は推定40万と推定され、また首都圏に在住する秋高連傘下の同窓生は12万強と推定されて居るのが現状であります。

秋田県人会連合会が縦の組織とするならば、さしずめ、秋高連は横の組織と云えるのではなからうかと思えます。近年は秋田県人会連合会と秋高連が共に緊密な連携を取りながら、郷土愛、母校愛を涵養すると共に会員相互のさらなる連携を強め親交を深めると共に、将来は郷土秋田県と首都圏に在住する秋田県出身者との経済と人材、そして文化の対流と交流が活発に展開できるようそれぞれが活動に入って居ります。

交通、通信網、情報の発達によって、現代はふるさと



は遠くにありて思うものではなくりました。同窓会も、ふるさと会も年一回の懇親会を脱却して、古里に、母校に何ができるか。又郷土秋田は首都圏に在住する40万強に及ぶ秋田県出身者に対して何ができるかが問われる時代になっているのではなからうかと思えます。

10年前、八柳事務局長の発案で始まった能代、山本地区ふるさと会と6校同窓会との合同懇親会が今みごとに花開き、毎年12月に行われる「やつめうなぎ、きりたんぼの会」には能代、山本以外の県北各校同窓生も米代川流域のふるさと会も多数、参加して盛大に行われるようになりました。やがてこれらの組織が、首都圏で開催する能代、山本各市町村の合同物産展等に於ては今後首都圏在住の会員の大応援団に形成されて行くであろうと思えます。

残生限りあり余命、幾ばくもない身なれども、我、今一度、母校の「建学の精神」にうたわれている「一國文教ヲ以テ興リ、一國文教ヲ以テセブ」の文言を心にとどめ置きながら、後に続く、後輩を信じて老骨にむち打ち、非力ながら頑張って参りたいと思っております。

## 新卒者インタビュー

第73期(新55期)

成田 巧 君



成田さんとは、JR飯田橋駅、東口で待ちあわせ。

現在東洋大学、日本文学文化学科に学び、読書が趣味。将来は出版関係の仕事にしたいと希望している。昼働き、夜学ぶという生活を選択した成田さんは、郷里を出る時は不安で一杯でしたが、「やるしかない!」と腹を決め上京したと語ってくれた。

現在は、会社の寮に住んでいて、「東京はとにかく便利です。コンビニ一つ見ても、十分も歩けばあります。郷里では、自転車で一時間でした。」と笑う。

上京後は学友と職場の同僚など新たな友人ができたとのこと。やはり、毎日の生活は多忙を極め、平日の過ごし方としては、4時起床、通勤1時間で、8時半から午後4時半まで仕事。6時から9時まで授業。10時頃寮に戻り、遅い夕食という日々で、たまの休日は、一日休んだり、洗濯や買い物などしているとのこと。

上京して良かったな、と思うこととして、郷里では、刺身などの生物は食べられなかったが、寮母さんのおいしい料理と、残してはいけないという気持ちから、食べられるようになったことが、最大の収穫。と語り、今困っていることは、まだ地理や店がわからないので、自分が欲しい物がどこに行けば手に入るかが解りにくい事です、と話す。

能代高校時代は、放送部で活躍し、朗読の部で全国大会に出場した経験をもつ成田さん。今年も後輩が5人全国大会に出場したと聞いて、目を細めている。

東京同窓会については、「話には聞いていましたが、活動の内容までは知りませんでした。日常生活でも、情報がなく困る事もあります。同窓会で情報交換できれば、ありがたいと思います。」との答えでした。

第28期(新10期)  
能代高校東京同窓会

監事  
大久保 征輝  
(能代市富町出身)

〒330-0037  
さいたま市東大成町  
2-191-507

第26期(新8期)  
能代高校東京同窓会

事務局長  
八柳 昭義  
(能代市出身)

〒164-0012  
東京都中野区本町  
6-18-16

特集記事「ウチの期の同窓生」

元副会長の菅原貞敬

首都圏に在住の同窓生は、約4,000人程ではないかと推定されています。しかし、そのうち東京同窓会が住所を把握しているのはほぼ1,400人ほどにすぎません。

そこで、今回は東京同窓会の各期の幹事さんや東京同窓会に熱心にご参加くださる皆さんに、分ける範囲で消息をお知らせいただくことにいたしました。今回は、数期に留まっていますが、これを契機に皆さんの様子が益々明らかになることを祈っています。

なお、以下の記述には編集部で加除修正させていただきましたので、文責は全て編集人にあることをお断りしておきます。

**第25期(新制7期) 畠 豊彦**  
1955(昭和30)年に能代市内及び周辺の高専卒業の同期会である「55会」第5回懇親会を、本年2月8日に鎌倉で行った。

参加者は、男性17名(能代高15名、能商高1名、鷹巣農林高1名)、女性10名(能北高)で、能代から落合士郎が特別参加。当日は北鎌倉駅に集合し、建長寺半僧坊から鎌倉アルプスの山道を踏破して会場のある材木座まで歩いた。

宴会では、シェークハンドゲーム・座布団相撲のアトラクションやカラオケを楽しんだあと各校の校歌でエールを交換。みんな、よく呑んだ。

能代高校の参加者は、秋林、小貫、北島、京、栗原、工藤尊久、佐々木胤麿、田中一男、民谷、納谷六郎、平川、港、柳谷、落合、畠。



翌日は、秋林の案内で材木座海岸から歩き始め、お寺めぐりをしてから蕎麦屋で別れの乾杯をし、来年の再会を約した。

**第26期(新制8期) 佐々木 章**

神奈川県下に在住する同期生が、月一回程度集る横浜会があります。会長は北村君。飲み会です。主旨は定年後のボケ防止。お互いに日頃の体調の悪さの自慢話? やれ尿の出が悪い、血圧が高い、体脂肪が多い等同年です。同じ病気(?)、持ちのようなもの。俺だけかと思っただけで、お前もかという具合で一安心。アルコールの量が一段と多くなる。それにしても鶴見に住んでいる京極君、町内会長で地域活動に一生懸命。北村君、横浜・福井・静岡と家があり、行ったり来たり多忙。二号三号がいる訳でないから誤解のないように。松橋君、定年後も顧問として活躍している。こ

こしばらく会っていないが総会で会うことを楽しみにしている。元機長の宮腰英彌君、しばらく横浜同窓会にも姿を見せないの心配している。若見君は大田区在住、横浜同窓会には必ず出席する優等生。最近孫で孫の可愛さにのめりすぎだ。畠山君はやれ県人会、古里会、同窓会だと忙しい忙しいといって飛び回っている。畠山君の生きがいがいだから、これをとったら早死にするかも。やらせておこう。同期では007のショーコンネリのあだ名のある鎌田吉郎君。ここ二、三年同窓会にも姿を見えていない。心配している。まじめ人間佐々木高博君、どうしているかな。今年は野呂文雄君、佐藤五郎君を誘って同窓会に来てよ。俺は待つて

いるぜ!自分のことはそっちのけで何時も同期生の体調を心配してくれる米森君、峰浜古里会の会長、秋田県人会の副幹事長等で忙しいことは解るけど、東京同窓会にも協力してよ。神山正子さん、同期のマドンナ。高校時代のバレー部員がそのまままじいになった感じの堀(田畑)君、今も歯に紺せぬ弁舌を聞かせてくれ、楽しみにしている。事務局長の八柳君、同窓会に微力だが手伝いしてるから安心して養生して、一日も早い元気な姿を見せてくれ。俺、佐々木、十年前に余命数年と宣告されたがまだ生きてるとはどうゆうわけ? 8期の幹事を引受けたからにはそれなりに頑張るつもりだ。それにしてもユニークな集りの新8期だと思う。来年は当番幹事だから同期の皆さんよろしくお願いします。

特集  
ウチの期の同窓生

**第27期(新制9期) 石 嶋 喜 直**

わが同期生の中で、自他共に許す幹事役で、且つ取り纏め役でもあった七戸節男が、若くして大腸ガンがもとで逝ってしまったから、早いもので5年になるが、旗振り推進役を失った吾が新制9期生は、その後今に至るまで同期会を開いていない。

それまでは、彼の号令一下、菅原貞敬がマネージャーを勤めていたホテルをメインの会場にして、毎年盛大に、時には北高卒業生まで入れて同期が集まっていたのだが、今年一回の東京同窓会の総会に10人前後が集まるだけになってしまった。

「芸文春秋」の「同級生交歓」欄に、秋元正英、石岡忠治、それに菅原と石嶋の4人で出させてもらったが、それも同期の秋元が母校の校長先生になったことに感激した七戸が、いろいろの手を遣って雑誌社を口説いて掲載させ

コリと痛みにツボ療法

現代人の健康アクセサリ

1.2mmの金属粒子の貼付が、痛み・腫れを抑え、血行を促進し、炎症の軽減を図ります。スポーツ分野に広く使用されています。

100粒入 3,000円(税別) (送料900円)

TEL/FAX 03-5747-2941

〒114-0024 東京都大田区中央6-20 マンション2上  
505号 TEL/FAX 03-5747-2941

（株）コミュニティスポーツ研究所

第20期(新制2期) 小野 喬